

シュレスヴィツヒ・ホルシュタイン・アカデミー合唱団
日本公演プログラム



2005年4月15日(金) 19:00 盛岡公演

都南文化会館キャラホール

主催:盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

2005年4月16日(土) 18:00 仙台公演

イズミティ21大ホール

主催:仙台宗教音楽合唱団

2005年4月17日(日) 16:00 東京公演

浜離宮朝日ホール

主催:朝日新聞社

2005年4月20日(水) 19:30 大阪公演

和泉シティプラザ弥生の風ホール

主催:財団法人 和泉市公共施設管理公社



日程

4月15日(金)盛岡公演 都南文化会館キャラホール 19:00開演

共演:盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

主催:盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

後援:岩手県教育委員会、盛岡市教育委員会、岩手県文化振興事業団、盛岡市文化振興事業団、岩手県合唱連盟、
岩手日独協会、NHK盛岡放送局、岩手日報社、盛岡タイムス社、情報紙游悠

■第1部 指揮/佐々木正利 合唱/盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

■第2部 合唱/ホルシュタイン&盛岡の共演

■第3部 指揮/ロルフ・ベック 合唱/シュレスヴィッヒ・ホルシュタイン・アカデミー合唱団

4月16日(土)仙台公演 イズミティ21大ホール 18:00開演

共演:仙台宗教音楽合唱団

主催:仙台宗教音楽合唱団

後援:(財)仙台市市民文化事業団、(財)宮城県文化振興財団、朝日新聞仙台総局

■第1部 指揮/ロルフ・ベック 合唱/仙台宗教音楽合唱団 オルガン/東浦綾郁

■第2部 合唱/ホルシュタイン&仙台の共演

■第3部 指揮/ロルフ・ベック 合唱/シュレスヴィッヒ・ホルシュタイン・アカデミー合唱団

4月17日(土)東京公演 浜離宮朝日ホール 16:00開演

主催:朝日新聞社

■指揮/ロルフ・ベック 合唱/シュレスヴィッヒ・ホルシュタイン・アカデミー合唱団

4月20日(水)大阪公演 和泉シティプラザ弥生の風ホール 19:30開演

主催:財団法人 和泉市公共施設管理公社

後援:和泉市・和泉市教育委員会

■指揮/ロルフ・ベック 合唱/シュレスヴィッヒ・ホルシュタイン・アカデミー合唱団

盛岡公演 4月15日(金) 19:00開演 都南文化会館キャラホール

■第1部 指揮/佐々木正利 合唱/盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

メンデルスゾーン:

羊飼いの歌(混声4部合唱・無伴奏)

おお雲雀(混声4部合唱・無伴奏)

シューベルト:

セレナーデD921(アルト独唱/佐々木まり子・女声4部合唱・Pf/平井良子)

アヴェ・マリア(アルト独唱/佐々木まり子・混声4部合唱・Pf/平井良子)

ワーグナー:

歌劇「ローエングリン」より“婚礼の合唱”(混声4部合唱・Pf/平井良子)

歌劇「タンホイザー」より“さちあれ芸術の館”(混声4部合唱・Pf/平井良子)

■第2部 合唱/ホルシュタイン&盛岡の共演

シューマン:

流浪の民

指揮/ロルフ・ベック

Katharina Leyhe(S)、佐々木まり子(A)、佐々木正利(T)、Hartmut Schröder(B)・混声4部合唱・平井良子(Pf)

山田 耕筈:

赤とんぼ

指揮/佐々木正利

混声4部合唱・平井良子(Pf)

※1部と2部の歌詞と対訳は中刷りを参照して下さい。

〈 休 憩 〉

■第3部 指揮/ロルフ・ベック 合唱/シュレスヴィヒ・ホルシュタイン・アカデミー合唱団

ブラームス:

4つの四重唱曲op.92(混声4部・Pf)

美しい夜

晩秋

夕べの歌

なぜ?

シューマン:

スペインの歌芝居op.74

No.5 裏切られる(S.A.T.B)

No.9 わたしは愛されている(S.A.T.B)

シューベルト:

詩篇第23番 D706

ブラームス:

ジプシーの歌op.103(混声4部合唱・Pf)

おい、ジプシー

波立つリマの流れよ

あの子が一番きれいなのはどの時か知ってるかい?

神様、あなたをご存知です

褐色の若者

三つのバラが列になって

あなたは時々思い出してくれるでしょうか?

ほら、風が枝の間で嘆き声をあげている

どこへ行っても誰も僕を見ようとしな

月がその顔を覆ってしまった

真っ赤な夕焼けは進み

仙台公演 4月16日(土) 18:00開演 イズミティ21大ホール

■第1部 指揮/ロルフ・ベック 合唱/仙台宗教音楽合唱団 オルガン/東浦綾都

シューベルト:

ドイツミサ曲D872(混声4部合唱・Org)

■第2部 合唱/ホルシュタイン&仙台の共演

モーツァルト:

アヴェ・ヴェルム・コルプス(混声4部合唱)

指揮/ロルフ・ベック

オルガン/東浦綾都

山田 耕筰:

赤とんぼ(混声4部合唱)

指揮/佐々木正利

ピアノ/東浦綾都

《 休 憩 》

■第3部 指揮/ロルフ・ベック 合唱/シュレスヴィッヒ・ホルシュタインアカデミー合唱団

ブラームス:

4つの四重唱曲op.92(混声4部・Pf)

美しい夜

晩秋

夕べの歌

なぜ?

シューマン:

スペインの歌芝居op.74

No.5 裏切られる(S.A.T.B)

No.9 わたしは愛されてる(S.A.T.B)

シューベルト:

詩篇第23番 D706

ブラームス:

ジプシーの歌op.103(混声4部合唱・Pf)

おい、ジプシー

波立つリマの流れよ

あの子が一番きれいなのはどの時か知ってるかい?

神様、あなたはご存知です

褐色の若者

三つのバラが列になって

あなたは時々思い出してくれるでしょうか?

ほら、風が枝の間で嘆き声をあげている

どこへ行っても誰も僕を見ようとしな

月がその顔を覆ってしまった

真っ赤な夕焼けは進み

東京公演 4月17日(日) 16:00開演 浜離宮朝日ホール

大阪公演 4月20日(水) 19:30開演 和泉シティプラザ弥生の風ホール

■指揮/ロルフ・ベック 合唱/シュレスヴィツヒ・ホルシュタインアカデミー合唱団

ブラームス:

ジプシーの歌op.103(混声4部合唱・Pf)

おい、ジプシー
波立つリマの流れよ
あの子が一番きれいなのはどの時か知ってるかい?
神様、あなたはご存知です
褐色の若者
三つのバラが列になって
あなたは時々思い出してくれるでしょうか?
ほら、風が枝の間で嘆き声をあげている
どこへ行っても誰も僕を見ようとしな
月がその顔を覆ってしまった
真っ赤な夕焼けは進み

シューマン:

スペインの歌芝居op.74

No.1 最初の出会い(S.A)
No.2 間奏曲(T.B)
No.3 愛の悲しみ(S.A)
No.4 夜に(S.T)
No.5 裏切られる(S.A.T.B)
No.6 メランコリー(S)
No.7 告白(T)
No.8 便り(S.A)
No.9 わたしは愛されてる(S.A.T.B)

Sop : Katharina Leyhe
Ten : Hartmut Schröder
Bass : Makitaro Arima

シューマン:

流浪の民(S.A.T.B独唱・混声4部合唱・Pf)

〈 休 憩 〉

ブラームス:

4つの四重唱曲op.92(混声4部・Pf)

美しい夜
晩秋
夕べの歌
なぜ?

シューベルト:

セレナーデD921(アルト独唱・Lucia Duchonova女声4部合唱・Pf)

詩篇第23番 D706(女声4部合唱)

ドイツ民謡より抜粋(混声4部合唱・無伴奏)

※独唱者は、当日変更になることもございますのでご了承下さい。

曲目解説

ブラームス (Johannes Brahms, 1833-1897)

ブラームスの作品に影響を及ぼしたさまざまな要素は、彼の合唱作品によく示されている。彼はデトモルトの合唱指揮者だったところに、当時の一般的な音楽のレパートリーを知るようになった。彼はまたヘンデルやロヴェッタ、プレトリウスらの作品をよく研究し、後に自ら合唱曲を作曲するにあたってそのスタイルの基礎としたのだった。対位法を勉強したり、ルネサンスやバロックのレパートリーを加えていき、16世紀ドイツ歌曲からの影響も吸収していった。また、彼の作品全体の中心にある、古典主義的要素とロマン主義的要素の間の均衡に対する探求もみられる。

◆ジプシーの歌 作品103

ブラームスは晩年、ウィーンの商人フーゴ・コンラート夫妻と親密で、よく彼らの家を訪問してくつろいだ時を過ごしていた。その折りに、ブダペストで出版されたツォルタン・ナーギのピアノ伴奏をともなう25曲のハンガリー・ジプシーの民謡集を手に入れ、コンラートがその中から15曲を選んでドイツ語に訳した。ブラームスは1887年夏から年末にかけて、そのうちの11の歌詞に曲をつけた。残りの4つは後に曲をつけて、作品112の「6つの四重唱曲」の第3曲から第6曲に収録された。

ブラームスは好んでハンガリー・ジプシーの要素を取り入れて作曲しており、なかでもこの作品は「ハンガリー舞曲」と並ぶ代表作といえよう。11曲すべてが4分の2拍子、非常に色彩の豊かな響きが特徴で、ジプシーの感傷や情熱をよく表現している。形式や旋律、リズム、和声がシンプルで親しみやすく、ブラームスの数多い声楽曲のなかでも人気の高い作品である。

◆4つの四重唱曲 作品92

この曲はピアノ伴奏つきで、第1曲が1877年、残りは1884年に作曲されている。

内気だったブラームスの作品には、心の奥底に秘めた情熱や表に出せない感情などが込められているように感じられる。第1曲「ああ、美しい夜」で、夜の静けさのなかを若者がそっと恋人のもとを訪れる所で、ブラームスが好んで用いたロマンチックな転調のひとつ（3度下へ）を経て、より豊かなハーモニーと旋律の展開があり、ふたたび夜の静寂に包まれてゆく。つづく第2曲は半音階を使った進行が秋の季節の深まりを表し、第3曲ではたそがれの時のゆるぎなさを感じさせる。第4曲はゲーテ

が「天に向かって鳴りひびく…」と表現している歌の楽しさと優雅さ、心の高まりが曲にもうつしだされている。

シューマン (Robert Schumann, 1810-1856)

◆スペインの歌芝居 作品74

19世紀ヨーロッパの中流家庭では、よく室内楽演奏をして余暇を過ごした。なかでも二重唱や四重唱は大変に人気が高く、アマチュアの音楽愛好家たちの腕前もかなりのものだったらしい。従って、この時代の作曲家たちのほとんどが重唱曲を手がけており、これらはロマン派時代特有の歌曲であり、この時代にだけ見られる作品群である。

家庭的なつきあいの中で気軽に歌い、演じることのできるもの求めるアマチュア音楽愛好家たちの期待に応えて、シューマンはいくつかの小オペラ的作品を作曲した。パーティー・ゲームのように恋愛物語を展開し、全体的に陽気な雰囲気を漂わせているこの歌曲集では、あまり形式にこだわらず、より広く大勢の人に好まれるように作られている。

シューベルト (Franz Schubert, 1797-1827)

◆詩篇 第23番 D706

ロマン派音楽の開拓者、特に「ドイツ歌曲の王」といわれるシューベルトは、初めて「魔王」が作品1として出版されるまでに700曲にのぼる作品があった。この作品は、彼が次第に作曲家として認知されるようになったところに知り合ったアンナ・フレーリヒの依頼で作曲された。フレーリヒは女子音楽学校を設立した女性で、その学生たちと演奏するための作品だった。フェリックス・メンデルスゾーンの伯父で哲学者のモーゼス・メンデルスゾーン訳のドイツ語の歌詞に付曲している。編成はソプラノ2、アルト2という女性四重唱のために書かれているが、現在では各パートを複数を受け持つ女声合唱で歌うことが多い。

Johannes Brahms
Zigeunerlieder Op.103

Hugo Conrat aus dem Ungarischen

Nr. 1 He, Zigeuner

He, Zigeuner, greife in die Saiten ein!
Spiel das Lied vom ungetreuen Mägdelein!
Laß die Saiten weinen, klagen, traurig bange,
Bis die heiße Träne netzet diese Wangen!

Nr. 2 Hochgetürmte Rimaflut

Hochgetürmte Rimaflut,
Wie bist du so trüb;
An dem Ufer klag ich
Laut nach dir, mein Lieb!

Wellen fliehen, Wellen strömen,
Rauschen an dem Strand heran zu mir.
An dem Rimaufer laß mich
Ewig weinen nach ihr!

Nr. 3 Wißt ihr, wann mein Kindchen

Wißt ihr, wann mein Kindchen am allerschönsten ist?
Wenn ihr süßes Mündchen scherzt und lacht und küßt.
Schätzelein, du bist mein, inniglich küß' ich dich,
Dich erschuf der liebe Himmel einzig nur für mich!

Wißt ihr, wenn mein Liebster am besten mir gefällt?
Wenn in seinen Armen er mich umschlungen hält.
Schätzelein, du bist mein, inniglich küß' ich dich,
Dich erschuf der liebe Himmel einzig nur für mich!

Nr. 4 Lieber Gott, du weißt

Lieber Gott, du weißt, wie oft bereut ich hab,
Daß ich meinem Liebsten einst ein Küßchen gab.
Herz gebot, daß ich ihn küssen muß,
Denk, solange ich leb, an diesen ersten Kuß.

Lieber Gott, du weißt, wie oft in stiller Nacht
Ich in Lust und Leid an meinen Schatz gedacht.
Lieb ist süß, wenn bitter auch die Reu,
Armes Herz bleibt ihm ewig treu.

ブラームス:
ジプシーの歌

ハンガリーの詩からフーゲー・コンラートの独訳

おい、ジプシー

おい、ジプシー、弦を取れ!
不誠実な小娘の歌を奏でてくれないか!
弦を泣かせ、嘆かせ、悲しく不安からせてくれ、
熱い涙がこの頬を濡らすまで!

波立つリマの流れよ

波立つリマの流れよ、
何とおまえは暗く濁っているんだ。
岸辺で僕は嘆く
大声で君に向かって、恋人よ!

波は引き、また波は逆巻き、
浜辺の僕へ向かって唸りを上げる。
リマの岸辺で僕は
いつまでも彼女を思っ泣いていよう!

あの子が一番きれいなのはどの時か知ってるかい?

知ってるかい? あの子が一番きれいなのはどの時か。
それは彼女の甘い小さな口がふざけて笑いながら口づけする時。
恋人よ、君は僕のもの、心から口づけしよう、
君は、神様が僕だけのために創ってくれたのだから!

知っていますか? あの人を一番好きなのはどの時か。
それは彼がその腕でわたしを抱きしめる時。
恋人よ、あなたはわたしのもの、心から口づけします、
あなたは、神様がわたしのために創ってくれたのですから!

神様、あなたをご存知です

神様、あなたをご存知です、幾度わたしが後悔したか、
わたしは恋人に一度、口づけしてしまいました。
心が命じ、わたしは彼に口づけするしか無かったのです、
生きている限り、この初めての口づけの事を忘れないでしょう。

神様、あなたをご存知です、幾度 静かな夜に
わたしが喜びながら、苦しみながら恋人の事を考えたか。
愛は甘美なものです、たとえ苦い後悔があろうとも。
哀れな心はいつまでも変わらずに彼を想い続ける事でしょう。

Nr. 5 Brauner Bursche

Brauner Bursche führt zum Tanze
Sein blauäugig schönes Kind;
Schlägt die Sporen keck zusammen,
Csardasmelodie beginnt.

Küßt und herzt sein süßes Täubchen,
Dreht sie, führt sie, jauchzt und springt;
Wirft drei blanke Silbergulden
Auf das Zimbal, daß es klingt.

Nr. 6 Röslein dreie in der Reihe

Röslein dreie in der Reihe blühn so rot,
Daß der Bursch zum Mädel geht, ist kein Verbot!
Lieber Gott, wenn das verboten wär,
Ständ die schöne weite Welt schon längst nicht mehr;
Ledig bleiben Sünde wär!

Schönstes Ständchen in Alfold ist Ketschkemet,
Dort gibt es gar viele Mädchen schmuck und nett!
Freunde, such euch dort ein Bräutchen aus,
Freit um ihre Hand und gründet euer Haus,
Freudenbecher leerer aus.

Nr. 7 Kommt dir manchmal in den Sinn

Kommt dir manchmal in den Sinn, mein süßes Lieb,
Was du einst mit heil'gem Eide mir gelobt?
Täusch mich nicht, verlaß mich nicht,
Du weißt nicht, wie lieb ich dich hab,
Lieb du mich, wie ich dich,
Dann strömt Gottes Huld auf dich herab!

Nr. 8 Horch, der Wind klagt in den Zweigen

Horch, der Wind klagt in den Zweigen traurig sacht;
Süßes Lieb, wir müssen scheiden: gute Nacht.
Ach, wie gern in deinen Armen ruhte ich,
Doch die Trennungsstunde naht, Gott schütze dich.

Dunkle ist die Nacht, kein Sternlein spendet Licht;
Süßes Lieb, vertrau auf Gott und weine nicht.
Führt der liebe Gott mich einst zu dir zurück,
Bleiben ewig wir vereint in Liebesglück.

褐色の若者

褐色の若者が踊りの中へ入ってゆく
青い目の美しい娘を連れて。
二人で陽気に拍車を打ち鳴らし、
チャルダッシュのリズムを刻み始める。

自分のかわいい小鳩に口づけして戯れ合い、
彼女を回し、動かし、叫び声を上げて飛び跳ねる。
輝く銀貨を三枚投げて
シンバルを響かせるのだ。

三つのバラが列になって

三つのバラが列になって真っ赤な花を咲かせている。
若者が恋人のもとへ行く事は、禁じられてイヤしない!
神様、もしそれを禁じられるなら、
この美しい広大な世界にこれ以上の事も、
独身でいる事も無いでしょう!

アルフェルトの最も美しい町はケッチケメット、
そこには着飾った感じのいい乙女がたくさんいる!
友よ、そこで花嫁を探し出そう、
その手に求婚し、自分たちの家を建て、
喜びの杯を空けよう。

あなたは時々思い出してくれるでしょうか?

あなたは時々思い出してくれるでしょうか?愛する人よ、
かつて神聖な誓いでわたしを称えてくれた事を。
わたしを欺かないで、わたしを捨てないで、
あなたは知らないのです、どれだけわたしがあなたを愛していたか、
わたしを愛してください、わたしがあなたを愛しているほど。
そしたら神の恵みがあなたの上に流れ落ちてくれるでしょう!

ほら、風が枝の間で嘆き声をあげている

ほら、風が枝の間で悲しげにそっと嘆きの声を上げている。
愛する人、もうお別れだ。おやすみ。
ああ、あなたの腕の中で眠れたらいいのに、
でもお別れの時間だわ、さようなら。

夜の闇は暗く、星一つさえ瞬いていない。
愛する人、神様を信頼し、泣いてはいけませんよ。
神様がわたしたちをいつかまた会わせてくれたなら、
ずっと一緒に愛し合って幸せに暮らすのに。

Nr. 9 Weit und breit schau niemand mich an

Weit und breit schaut niemand mich an.
Und wenn sie mich hassen, was liegt mir dran?
Nur mein Schatz, der soll mich lieben, soll mich lieben allezeit,
Soll mich küssen, umarmen und Herzen in Ewigkeit.

Kein Stern blickt in Finsterner Nacht;
Keine Blum' mir strahlt in duftiger Pracht.
Deine Augen, deine Augen sind mir Blumen, Sternenschein,
Die mir leuchten so freundlich, die blühen nur mir allein.

Nr. 10 Mond verhüllt sein Angesicht

Mond verhüllt sein Angesicht,
Stüßes Lieb, ich zürne dir nicht.
Wollt ich zürnend dich betrüben,
sprich, wie könnt ich dich dann lieben?

Heiß für dich mein Herz entbrennt,
Keine Zunge dir's bekennt.
Bald in Liebesrausch unsinnig,
Bald wie Täubchen sanft und innig.

Nr. 11 Rote Abendwolken ziehn

Rote, Abendwolken zieh'n am Firmament,
Sehnsuchtvoll nach dir, mein Lieb, das Herz brennt.
Himmel strahlt in glüh'nder Pracht,
Und ich träum bei Tag und Nacht nur allein
Von dem süßen Liebchen mein.

**Johannes Brahms
Vier Quartette Op. 92**

1. O schöne Nacht
aus dem Ungarischen

O schöne Nacht!
Am Himmel märchenhaft
Erglänzt der Mond in seiner ganzen Pracht;
Um ihn der kleinen Sterne liebliche
Genossenschaft.

Es schimmert hell der Tau
Am grünen Halm; mit Macht
Im Fliederbusche schlägt die Nachtigall;
Der Knabe schleicht zu seiner Liebsten sacht —
O schöne Nacht!

どこへ行っても誰も僕を見ようとしな

どこへ行っても誰も僕を見ようとしな。
でもたとえ皆に憎まれたって、それが何だと言うんだ?
ただ僕の恋人が、僕を愛し、いつも愛し、
口づけして、腕と胸にいつまでも抱いていてくれさえすれば。

どんな星もそれ以上暗い夜には瞬かない。
どんな花も僕にはそれ以上香り良く輝かない。
君の眼、君の眼が僕にとっての花であり、星の輝き、
それは僕を優しく照らし、ただ僕のためだけに咲いてくれるんだ。

月がその顔を覆ってしまった

月がその顔を覆ってしまった、
恋人よ、僕は怒ってなんかないよ。
僕が怒って君を悲しませてしまうなら、
言っておくれ、一体どうやって君を愛したら良いんだい?

君を想って僕の心は熱く燃えているけど、
どの舌も君にそれを言いはしない。
愛に酔って訳がわからなくなったり、
鳩のように大人しく、物が言えなくなったりなんだ。

真っ赤な夕焼けは進み

真っ赤な夕焼けが天空を進み、
あなたへの憧れに満ちて、愛する人よ、心は燃えています。
空は燃え上がるように輝き、
僕は昼も夜も夢に見るのはただ一人
僕の愛する恋人の事ばかり。

**ブラームス:
4つの四重唱曲**

ああ、美しい夜
ハンガリーの詩から

ああ 美しい夜!
天空に童話のように
まん丸な月が輝いている。
そしてその周りに小さな星々がかわいらしく
付き添っている。

緑の茎についた露が
キラキラとかすかに光り、元気良く
ナイチンゲールがニワトコの茂みの中で鳴いている。
そして若者は恋人のもとへそっと忍んで行く—
ああ 美しい夜!

2. Spätherbst

Hermann Allmers

Der graue Nebel tropft so still
Herab auf Feld und Wald und Heide,
Als ob der Himmel weinen will
In übergroßem Leide.

Die Blumen wollen nicht mehr blühn,
Die Vöglein schweigen in den Hainen,
Es starb sogar das letzte Grün,
Da mag er auch wohl weinen.

3. Abendlied

Friedrich Hebbel

Friedlich bekämpfen
Nacht sich und Tag:
Wie das zu dämpfen,
Wie das zu lösen vermag.

Der mich bedrückte,
Schläfst du schon, Schmerz?
Was mich beglückte
Sage, was war's doch, mein Herz?

Freude wie Kummer,
Fühl ich, zerrann,
Aber den Schlummer
Führten sie leise heran.

Und im Entschweben,
Immer empor,
Kommt mir das Leben
Ganz wie ein Schlummerlied vor.

4. Warum?

Johann Wolfgang von Goethe

Warum doch erschallen
Himmelwärts die Lieder?
Zögen gerne nieder
Sterne, die droben
Blinken und wallen,
Zögen sich Lunas
Lieblich Umarmen,
Zögen die warmen,
Wonnigen Tage
Seliger Götter
Gern uns herab!

晩秋

ヘルマン・アルマース

灰色の霧が静かに
野や森の荒地に降りてくる。
まるで空が途方もない苦しみで
泣いているかのように。

花々はもう咲こうとはせず、
小鳥たちは林の中で黙り込み
最後の緑もおれてしまった。
空もきっと泣きたくなるだろう。

夕べの歌

フリートリヒ・ヘッベル

夜と昼が互いに
優しく争っている。
どうすれば相手を抑え、
どうすれば溶け合えるか。

わたしを押さえつけていた苦しみよ、
もうおまえは眠りについたのか?
わたしを幸せにしたのは
何だったのか、言ってみろ、心よ。

喜びも悲しみも
流れさってしまったようだ、
だがそれらは共に
まどろみを優しく招き寄せる。

そして眠りに引き込まれながら、
いつも高まってくるのを感じるのだ、
生きる力が
まるで子守歌のように。

なぜ?

ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ

なぜ歌は
天へと向かって響いてゆくのだろう?
天上で輝き、歩んでいる
星々を、ここへ
引き寄せようとしているのだ
月の優しい抱擁を
引き寄せようとしているのだ。
祝福された神々の
温かく幸せな日々を
わたしたちのために
引き寄せようとしているのだ!

Robert Schumann
Spanisches Liederspiel Op.74
Emanuel von Geibel

1. Erste Begegnung

Von dem Rosenbusch, o Mutter,
Von den Rosen komm ich.
An den Ufern jenes Wassers
Sah ich Rosen stehn und Knospen;

Von den Rosen komm ich.
An den Ufern jenes Flusses
Sah ich Rosen stehn in Blüte;
Von den Rosen komm ich.

Sah die Rosen stehn in Blüte,
Brach mit Seufzen mir die Rosen
Von dem Rosenbusch, o Mutter,
Von den Rosen komm ich.

Und am Rosenbusch, o Mutter,
Einen Jüngling sah ich,
An den Ufern jenes Wassers
Einen schlanken Jüngling sah ich.

An den Ufern jenes Flusses
Sucht nach Rosen auch der Jüngling,
Viele Rosen pflückt er,
viele Rosen.

Und mit Lächeln brach die schönste er,
Gab mit Seufzen mir die Rose.
Von dem Rosenbusch, o Mutter,
Von den Rosen komm ich.

2. Intermezzo

Und schläfst du, mein Mädchen,
Auf, öffne du mir;
Denn die Stund' ist gekommen,
Da wir wandern von hier;

Und bist ohne Sohlen,
Leg' keine dir an,
Durch reißende Wasser geht unsere Bahn,
Durch die tief, tiefen Wasser des Guadalquivir;

Denn die Stund' ist gekommen,
Da wir wandern von hier.
Auf, öffne du mir!
Auf, öffne du mir!

シューマン:
スペインの歌芝居
エマヌエル・フォン・ガイベル

最初の出会

バラの茂みから、ああ お母さん、
バラの所からわたしは帰ってきたの。
あの水辺で
つぼみのついたバラが生えているのを見たわ。

バラの所からわたしは帰ってきたの。
あの川辺で
わたしはバラが花咲いているのを見たわ。
バラの所からわたしは帰ってきたの。

わたしはバラが花咲いているのを見て、
ため息をつきながらバラを折ったの。
バラの茂みから、ああ お母さん、
バラの所からわたしは帰ってきたの。

そのバラの茂みで、ああお母さん、
一人の若者をわたしは見たの。
あの川辺で
一人のすらっとした若者を見たの。

あの川辺で
その若者もバラを探し、
たくさんバラを摘んでいたの、
たくさんバラを。

そして微笑みながら彼は最も美しいバラを折り、
ため息をつきながらわたしにバラをくれたのよ。
バラの茂みから、ああ お母さん、
バラの所からわたしは帰ってきたの。

間奏曲

眠ってるのかい、お嬢ちゃん、
起きて、戸を開けてくれ。
もう時間だ、
僕らはここから旅立たねばならない。

靴がないのなら、
履かなくてもいいよ。
流れの速い川を下って旅するのだから。
グアダルキヴィールの深い、深い川を。

もう時間だ、
僕らはここから旅立たねばならない。
起きて、戸を開けてくれ!
起きて、戸を開けてくれ!

3. Liebesgram

Dereinst, o Gedanke mein, wirst ruhig sein.
Läßt Liebesglut dich still nicht werden,
In kühler Erden, da schläfst du gut,
und ohne Pein; wirst ruhig sein.

Was du im Leben nicht hast gefunden,
Wenn es entschwunden, wird dir's gegeben;
Dann ohne Wunden wirst ruhig sein,
Dereinst, o Gedanke mein, wirst ruhig sein.

4. In der Nacht

Alle gingen, Herz, zur Ruh,
Alle schlafen, nur nicht du.
Denn der hoffnungslose Kummer
Scheucht von deinem Bett den Schlummer,
Und dein Sinnen schweift in stummer Sorge
Seiner Liebe zu.

5. Es ist verraten

Daß ihr steht in Liebesglut,
Schlaue, läßt sich leicht gewahren,
Denn die Wangen offenbaren,
Was geheim im Herzen ruht.

Stets an Seufzern sich zu weiden,
Stets zu weinen statt zu singen,
Wach die Nächte hinzubringen
Und den süßen Schlaf zu meiden:

Das sind Zeichen jener Glut,
Die dein Antlitz läßt gewahren,
Und die Wangen offenbaren,
Was geheim im Herzen ruht.

Daß ihr steht in Liebesglut,
Schlaue, läßt sich leicht gewahren,
Denn die Wangen offenbaren,
Was geheim im Herzen ruht.

Liebe, Geld und Kummer halt' ich
Für am schwersten zu verhehlen,
Denn auch bei den strengsten Seelen
Drängen sie sich vor gewaltig.

Jener unruhvolle Mut
Läßt zu deutlich sie gewahren,
Und die Wangen offenbaren,
Was geheim im Herzen ruht.

愛の悲しみ

いつの日か、わたしの思いよ、あなたも安らぎを得るでしょう。
燃え立つ愛があなたを静める事がなくとも、
冷たい土の中なら、あなたも気持ち良く眠れるでしょう。
痛みも無く、あなたも安らぎを得るでしょう。

あなたがこの人生で得られなかったものは、
命が尽きた時に、あなたに与えられるでしょう。
その時には傷も無くあなたも安らぎを得るでしょう。
いつの日か、わたしの思いよ、あなたも安らぎを得るでしょう。

夜に

すべては、心よ、安らいでいる。
すべては眠っている、ただおまえ以外は。
この望みの無い悲しみが
おまえをベッドで眠らせず、
おまえの心は静かな不安の中をさまよっているから
恋人の事を思ってあてどなく。

裏切られる

あなたたちは愛を燃え立たせていることを、
抜け目無い人たちよ、簡単に気づかせる、
だって頬がもらしている、
密かに心の中に眠っているものを。

いつもため息を楽しみ、
いつも歌うかわりに涙を流し、
夜通し目を覚ましたままで
心地よい眠りを避けようとする・・・

それがあの燃え立つ情熱の証、
それをあなたの顔は気づかせ、
頬はもらしている、
密かに心の中に眠っているものを。

あなたたちは愛を燃え立たせていることを、
抜け目無い人たちよ、簡単に気づかせる、
だって頬がもらしている、
密かに心の中に眠っているものを。

わたしの持っている愛とお金と、悩みを
隠しているのは難しい、
どんな厳格な魂にも
それは力づくで迫ってくるから。

あのまったく落ち着かない気持ち
あまりにもはっきりとそれを気づかせ、
そして頬が明らかにしてしまう
密かに心の中に眠っているものを。

6. Melancholie

Wann, wann erscheint der Morgen,
Wann denn, wann denn!
Der mein Leben löst aus diesen Banden?

Ihr Augen, vom Leide so trübe,
Saht nur Qual für Liebe,
Saht nicht eine Freude;

Saht nur Wunde auf Wunde,
Schmerz auf Schmerz mir geben,
Und im langen Leben keine frohe Stunde.

Wenn es endlich doch geschähe,
Daß ich säh' die Stunde,
Wo ich nimmer sähe!

Wann erscheint der Morgen,
Der mein Leben löst aus diesen Banden?

7. Geständnis

Also lieb' ich Euch, Geliebte,
Daß mein Herz es nicht mag wagen,
Irgend einen Wunsch zu tragen,
Also lieb' ich Euch!

Denn wenn ich zu wünschen wagte,
Hoffen würd' ich auch zugleich;
Wenn ich nicht zu hoffen zagte,
Weiß ich wohl, erzürnt' ich Euch.

Darum ruf' ich ganz alleine
Nur dem Tod, daß er erscheine,
Weil mein Herz es nicht mag wagen,
Einen andern Wunsch zu tragen,
Also lieb' ich Euch!

メランコリー

いつ、いつになったら朝は訪れるのでしょうか？
いつ、一体いつになったら！
わたしの人生はこの束縛から解き放たれる時は。

眼よ、あなたは悲しみによって曇り、
愛に苦悩しか見出さず、
喜びを一つとして感じません。

相次ぐ傷に目を向けるだけで、
次々と痛みにわたしの身を委ね、
この長い人生で一時も楽しい時はありませんでした。

最期に訪れるのでしょうか、
わたしが一度として経験しなかった
そんな晴れやかな時が！

朝が訪れる時、
わたしの人生はこの束縛から解き放たれるのでしょうか？

告白

僕はこんなにもあなたを愛しているのです、愛しい人よ、
僕の心は何も考えられず、
とにかく一つだけの望みを抱くしかありません、
僕はこんなにもあなたを愛しているのです！

何故なら僕が何かを望もうとしたら、
別の事も同時に望む事になるでしょうから。
僕が遠慮無く望んだりしたら、
あなたを怒らせるという事も良く分かっています。

ですから僕はただ一つ
死が訪れてくれるように呼びかけるだけです。
僕の心は何も考えられず、
他の望みを抱くことなどできないのですから、
僕はこんなにもあなたを愛しているのです！

8. Botschaft

Nelken wind' ich und Jasmin,
Und es denkt mein Herz an ihn.
Nelken all', ihr flammenroten,
Die der Morgen mir beschert,
Zu ihm send' ich euch als Boten
Jener Glut, die mich verzehrt.

Und ihr weißen Blüten wert,
Sanft mit Düften grüßet ihn,
Sagt ihm, daß ich bleich vor Sehnen,
Daß auf ihn ich harr' in Tränen.
Nelken wind' ich und Jasmin,
Und es denkt mein Herz an ihn.
Tausend Blumen, tauumflossen,
Find' ich neu im Tal erwacht;
Alle sind erst heut' entsprossen,
Aber hin ist ihre Pracht,
Wenn der nächste Morgen lacht.

Sprich du duftiger Jasmin,
Sprecht ihr flammenroten Nelken:
Kann so schnell auch Liebe welken?
Ach, es denkt mein Herz an ihn!
Nelken wind' ich und Jasmin,
Und es denkt mein Herz an ihn.

9. Ich bin geliebt

Mögen alle bösen Zungen
Immer sprechen, was beliebt.
Wer mich liebt, den lieb' ich wieder,
Und ich weiß, ich bin geliebt;

Schlimme Reden flüstern
Eure Zungen schonungslos,
Doch ich weiß es, sie sind lüstern
Nach unschuld'gem Blute blos.

Nimmer soll es mich bekümmern,
Schwartz so viel es euch beliebt.
Wer mich liebt, den lieb' ich wieder,
Und ich lieb' und bin geliebt.

Mögen alle bösen Zungen
Immer sprechen, was beliebt.
Zur Verleumdung sich verstehtet nur,
Wem Lieb' und Gunst gebracht,

Weil's ihm selber elend geht
Und ihn niemand nimmt und mag.
Darum denk' ich, daß die Liebe,
Drum sie schmähn, mir Ehre giebt.

便り

カーネーションとジャスミンを編みながら、
わたしの心は彼のことを想う。
カーネーションよ、炎のような紅い花々よ、
今朝切ったおまえたちを、
彼に送ろう
わたしをやつれさせる、あの情熱の使者として。

そして愛する白い花たちよ、
優しい香りで彼に挨拶し、
彼に言うておくれ、わたしが憧れのあまり青ざめて、
彼に恋焦がれて涙にくれていると。
カーネーションとジャスミンを編みながら、
わたしの心は彼のことを想う。
千もの花々を、露の溢れる花々を、
わたしは新たに谷で見つけた。
どれも今日になって咲いたもの、
でもその輝きは失われてしまう、
次の朝が笑いかける時には。

香しいジャスミンよ、言うて頂戴、
炎のように紅いカーネーションよ、言うて頂戴、
愛もまたそんなに早く枯れてしまうものなの？
ああ、わたしの心は彼のことを想っています！
カーネーションとジャスミンを編みながら、
わたしの心は彼のことを想う。

わたしは愛されてる

みんな陰口が大好きで
いつも好き勝手に喋ってばかり。
わたしは、自分を愛してくれる人を愛するだけ、
わたしは分かっている、自分が愛されてるのが。

お行儀悪いひそひそ話で
あなたたちの舌はズケズケと物を言う。
だけどわたしは分かっている、みんな
乙女心を味わいたいだけ。

決してわたしを悩ませはしない、
みんなが好き勝手におしゃべりしても。
わたしは、自分を愛してくれる人を愛するだけ、
わたしは分かっている、自分が愛されてるのが。

みんな陰口が大好きで
いつも好き勝手に喋ってばかり。
悪口に同意するしかないのは、
愛や好意に欠けた人、

だってその人は惨めになって
誰も相手にしなくなるでしょうから。
だからわたしは思う、愛についての
陰口を言われるのは、名誉なことだと。

Mögen alle bösen Zungen
Immer sprechen, was beliebt.
Wer mich liebt, den lieb' ich wieder,
Und ich lieb' und bin geliebt.

Wenn ich wär' aus Stein und Eisen,
Möchtet ihr darauf bestehn,
Daß ich sollte von mir weisen
Liebesgruß und Liebesflehn;

Doch mein Herzlein ist nun leider weich,
Wie's Gott uns Mädchen giebt.
Wer mich liebt, den lieb' ich wieder,
Und ich lieb' und bin geliebt.

Franz Peter Schubert
Der 23. Psalm D706
Moses Mendelssohn

Gott ist mein Hirt, mir wird nichts mangeln.
Er lagert mich auf grüne Weide,
Er leitet mich an stillen Bächen,
Er labt mein schmachtendes Gemüt,
Er führt mich auf rechtem Stege
Zu seines Namens Ruhm.
Und wall' ich auch im Todesschattens Tale,
So wall' ich ohne Furcht,
Denn Du beschüttest mich,
Dein Stab und Deine Stütze
Sind mir immerdar mein Trost.
Du richtest mir ein Freudenmahl
Im Angesicht der Feinde zu,
Du salbst mein Haupt mit Öle
Und schenkst mir volle Becher ein;
Mir folget Heil und Seligkeit
In diesem Leben nach,
Einst ruh' ich ewige Zeit
Dort in des Ewiggen Haus

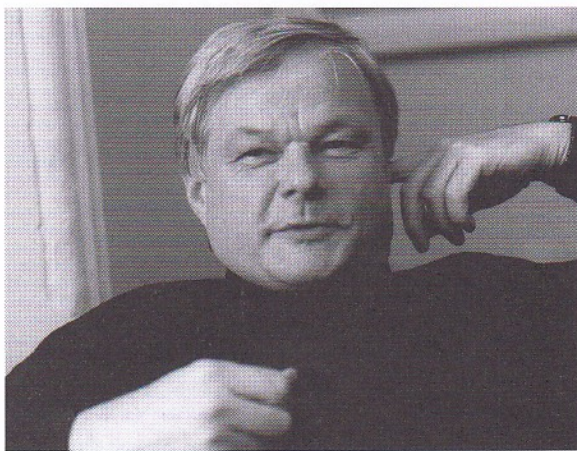
みんな陰口が大好きで
いつも好き勝手に喋ってばかり。
わたしは、自分を愛してくれる人を愛するだけ、
わたしは分かっている、自分が愛されているのが。

わたしが石や鉄でできてたら、
あなたたちの言うとおりに、
わたしは拒んでいたいでしょう
愛の挨拶も、愛の懇願も。

けれどわたしの小さな心は残念ながら繊細なもの、
そう神様がわたしたち人間に与えてくれたのだから。
わたしは、自分を愛してくれる人を愛するだけ、
わたしは分かっている、自分が愛されているのが。

シューベルト:
詩篇第23番
モーゼス・メンデルスゾーン

神はわたしの羊飼い、わたしに何一つ欠かせる事はありません。
神はわたしを緑の牧場で休ませ、
わたしを静かな小川へと導き、
わたしの渴いた気持ちを元気づけ、
わたしを正しい道へと連れて行ってくれます
自分の名の栄光にかけて。
そしてわたしは死の陰の谷を行く時も、
怖れずに歩きます、
何故ならあなたがわたしを守り、
あなたの杖、あなたの支えが
いつ、いかなる時もわたしの慰めとなってくれるのですから。
あなたはわたしのために喜びの食事を整えてくれます
敵を目の前にしていても。
あなたはわたしの頭に香油を注ぎ
わたしの杯を満たしてくれます。
そうして救いと幸福がわたしの後を追うのです
この人生において。
いつの日かわたしは永遠の時を憩うでしょう
天国にある永遠の家の中で。



指揮:ロルフ・ベック

Rolf Beck

ヴィルヘルム・エーマン、ヴォルフガング・ゲンネンヴァイン、ヘルムート・リリングのもとで学んだ。1968年より合唱指揮者として活動を始め、1972年にはマールブルク・ヴォーカルアンサンブルを組織、1976年のThe International Choir Festival Cork, Irelandで第2位、1982年、The German Choir Festival in Cologneで第2位など、数多くの受賞歴をもつ。1981年にバンベルク交響楽団の指揮者。2002年からシュレスヴィッヒ・ホルシュタイン音楽祭の合唱アカデミーを創設、主宰している。



シュレスヴィッヒ・ホルシュタイン・アカデミー合唱団

Schleswig-Holstein Akademie Chor

シュレスヴィッヒ・ホルシュタイン音楽祭は、1986年、世界的指揮者バーンスタインによって創立され、ドイツ国内の同名の州において、毎年夏に開催されており、2005年で20回目を迎える。毎年、一流の音楽家・オーケストラ等の参加を得て、次第に規模を大きくしながら、現在では、欧州を代表する音楽祭として知られている。

この音楽祭においては、教育プログラムにも力を入れており、厳しいオーディションを経た、世界各国からの若手実力者からなるアカデミーオーケストラを創設し、バーンスタイン、メニューーイン、ロストロポーヴィッチ、エサ・ベッカ・サロネン、セルジユ・チュリビダッケ、エッセンバッハ等錚々たる音楽家たちとの交流・指導をととして音楽的にも著しい成長を見せている。

このオーケストラの成功をふまえ、いわば合唱版として結成されたのが本合唱団である。世界的な合唱指揮者ロルフ・ベックにより2002年に結成されたこの合唱団は、才能あふれる世界中の若者たちから選ばれたメンバーにより構成され、バーンスタインらによる効果的なカリキュラムを基に指導されており、結成間もないにもかかわらず、既に高い実力を備えており、同音楽祭においても幅広く魅力的なレパートリーが遺憾なく発揮されている。

同音楽祭では、毎年、特集国を設定し、当該国の作曲家、音楽家等に関するコンサートを多数開催し、両国間の文化交流に寄与しているが、本2005年は日本が特集国に選定されたこともあり、愛知県において開催される万国博覧会において演奏を行うため、今回、来日するにいたったものであり、東京、仙台など日本各地において公演を行なう予定である。



合唱指揮:佐々木正利
Masatoshi Sasaki, chorus master

東京芸術大学卒業、同大学院修了。1973年バッハ「クリスマス・オラトリオ」の福音史家でデビューして以来、バッハをはじめとする宗教音楽のスペシャリストとして揺るぎない地位を得ている。79年シュトゥットガルトに渡り、L.フィッシャー教授に師事。また自身が育てた合唱団も度々共演し、その歌唱力、合唱指導力によって絶大な信頼を得ている。岩手大学教育学部教授、二期会会員。盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、オーケストラ・アンサンブル金沢合唱団、仙台宗教音楽合唱団、岩手大学合唱団、各指揮者。

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン(合唱)
Morioka-Bach-Kantaten-Verein

1977年「カンタータを歌う会」として発足。以来、一貫してJ.S.バッハの作品を中心としたドイツ・バロック合唱曲の研究、演奏を行っている。その演奏が、91年ドイツにおいて「作品の語感、音、そして精神の完熟」という現地新聞の批評を受けるに至るまでには指揮者、佐々木正利のドイツ・バロック音楽に対する卓越した見識に基づく、熱意溢れる指導の積み重ねがあった。佐々木は超一流のエヴァンゲリストとして評価されるその発音、語感、様式感をもう一つのライフワークである合唱団の育成に注ぎ込み、その結果「言葉が生きる」とく音楽が生きる」とは歌の世界では同義語である」というフェラインの音楽信条が演奏上の身上となるに至ったのである。その後、H.ヴインシャーマン、H. J.ロッチュ、J.ツィルヒ、岩城宏之等、世界的指揮者との共演を重ね、各指揮者より、ドイツ・バロック音楽を音楽的かつ人間的に表現できる合唱団として、熱い評価を得るようになった。この評価は、暖かい音色を基調としながら、音楽の刻々と変化する様相を、その時々に対応しいニュアンスで大胆かつ繊細に、確信を持って表現しきろうとする、あくまで人間バッハへの共感を基調とする合唱団に対してのものなのである。ミュンヘンのヘラクレスザールでハイドンの「天地創造」を演奏する(ニュルンベルク交響楽団)同じ週に、各地教会でア・カペラの小品を歌う。フェラインは、常に盛岡の教会での練習で培ったトーンを原点として活動してきた。



一昨年11月には盛岡、12月には東京で、それぞれH.ヴインシャーマン指揮のドイツ・バッハゾリステンとバッハの「マタイ受難曲」を演奏し、絶賛を博した。また、今年1月には「マルコ受難曲」を中心とした演奏会を開催し、大きな感動を呼んだことは記憶に新しい。



仙台宗教音楽合唱団
Chor Geistlicher Musik Sendai

1967年の創立以来、一貫して宗教音楽、特にドイツ・バロック期の宗教曲を中心にすえて活動。77年にはH.リリング氏に招かれ、第1回目のドイツ演奏旅行を行う。82年以降は佐々木正利氏を常任指揮者に迎え、バッハのヨハネ、マタイ受難曲、ロ短調ミサ、カンタータ等に加え、シュッツ、ヘンデル、モーツァルトなどの古典的作品をはじめとし、近現代の無名に近い宗教音楽まで幅広く取り上げて演奏している。作品の本質に迫るためには「歌詞の深い理解とそこに込められたメッセージへの共感」を十全に表現することが大切であり、そのためにはまず「正確な発音、訓練された声」と「正しい様式感」が不可欠である、という佐々木氏の指導のもとに演奏会を目指し練習を重ねている。2004年7月末、佐々木氏の率いる全国諸合唱団とともにライブツィヒ、アイゼナハなどバッハゆかりの街の教会でライブツィヒ・バロックオーケストラとの共演により演奏会を開催した。

臺灣省政府教育廳 令

中華民國 60 年 12 月 15 日 教廳令

第 1234 號

查 教育部 60 年 11 月 10 日 台(60)教訓字第 1234 號 令

准予 備案 在案

茲 准 貴廳 呈請 查照 在案

仰 該廳 遵照 辦理

此 令

臺灣省政府 教育廳 長 官 署

秘書長 官 署

第一 科 長 官 署

第二 科 長 官 署

第三 科 長 官 署

第四 科 長 官 署

第五 科 長 官 署

第六 科 長 官 署

第七 科 長 官 署

第八 科 長 官 署

第九 科 長 官 署

第十 科 長 官 署